



阿尔泰山友谊峰 The Friendship Peak in the Altay Mountains(4,374 meters above sea-level)

1998 OCTOBER



日本ヒマラヤ協会

THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

1999年HAJ登山隊員募集

アルタイ(中国側)の最高峰へ行きましょう

中国、モンゴル、ロシア、カザフスタン四国に またがる「アルタイ」山脈は、約2000kmにも及ぶ 大山脈です。その最高峰は、中国、モンゴル国境 付近にそびえ立つ「友誼峰・4.374m | です。モ ンゴル側では古くから「タバン・ボグド」と呼ば れ、その主峰は「フィティン・4.422m」とされ ています。

モンゴル側からは、何登もされている山ですが、 中国側からは「未踏」です。かって開高健が巨大 魚を求めて探索した「ハナス湖」から更に奥に分 け入りこの主峰を目指してみませんか。興味のあ る方は、HAJ事務局へ連絡下さい。

記

- 1. 日 時:1999年8月 3週間
- 2. 募集人数:約10名
- 3. 説明会: 1998年9月26日(土) 15時 HAJ ルームにて行います。興味のある方はご一報 下さい。



引き続き募集中!!

カバン峰 (6.717m) 未踏峰 チョム・カンリ (7.048m) ニンチン・カンサ (7.206m)

表紙写真

長い間の夢であった「アルタイ」の許可が得られた。10年前、作家の故開 高健が「巨大魚」を探してハナス湖を訪れた。その紀行がテレビで放映され た時、中国側の資料映像として空撮の「友誼峰」が映し出され一条の美しい 氷河を見た。今月号の写真は中国の出版物に掲載された友誼峰周辺の山であ る。 (山森 欣一)

ヒマラヤ No.323

PEOPLE

Mr. SANZ ZHU

- 2. 21世紀の夢 ヒマラヤ九ヶ国[最高峰|全山登頂
- インド女性隊初

トランス・ヒマラヤ横断の旅 ヴィネータ・ムニ

- 7. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・ヒマラヤから・Books〉
- 11. 8,848m峰を登るために -東北地区海登研シンポジウム-
- 24. 事務局日誌

PEOPLE

1993年秋、一通の手紙がHAJに配達された。 発信人は「西蔵登山協会」8月28日付けである。 内容は、「チベット登山協会が単独で1993年から 2002年の間に、世界の八千メートル峰14座全山登 頂計画をスタートさせ、春にアンナプルナⅠ、ダ ウラギリⅠに登頂した]ついては、[この計画に 物資と資金の援助をお願いしたい]見返りとして 支援者には「平等互利」の原則に基づき [チベットの登山について最優遇の価格と便宜供与を行い、 額が多ければ無料とする]などであった。

文章の宛先は、日本山岳協会、日本山岳会、日本とマラヤ協会、長野県山岳協会の4団体会長で連名となっていた。連名で要請されたこともあって、同年12月10日に4団体が日本山岳会にて対応について協議を行った。結果的には、この協議では日本山岳協会が窓口となって、チベット側に日本側の協議内容を連絡し、回答をもらうことになっていたが、その後うやむやになり、結果的には各団体はそれぞれの組織の事情に応じて対応した模様である。(勿論この要請は日本だけに出されたものではない。)

チベット登山隊の14座計画は、その後も順調に進み、94年にシシャパンマ、チョー・オユー、95年ガッシャーブルムII、96年マナスル、97年ナンガ・パルバット、98年春カンチェンジュンガに成功し8座を掌中に収めたこととなった。その後の計画は、今秋のローツェ(ネパール側)の計画は決定しているものの、以後は未定。但し、99年は台湾と合同でチョゴリ(K2)の案も浮上し、ネパール側から失敗したマカルーについては、中国側からトライすることも検討されている模様。

この「八千メートル峰14座登頂」のチベット登 山隊の隊長を務めているのが桑珠氏である。

桑珠氏は、チベット自治区の第二の都市シガツェ に生まれた。兄2人、姉1人、弟2人の6人兄弟 の4番目。

1974年に中国登山隊に入り、翌年のチョモランマ隊に参加。頂上攻撃の第二組(潘多以下5名)に入った。この時第一組(索南羅布以下5名)の



中に入っていながら、高山病のため8,200 mから下山したのが、86年HAJと四川省登山協会が合同で初登頂した時にメンバーとなった楊久輝氏である。このため登頂者は9名となったのであるが、桑珠氏は見事初戦で最高峰の登頂者となった。

77年はトムール(ポベーダ)峰である。この時は第2次隊として、現在の中国登山協会主席である曽曙生氏らと共に登頂に成功している。

86年には中部チベット「四名山」の一つに数えられるニンチン・カンサ(昨年からHAJのサマー・キャンプの舞台となっている。)登山隊の副隊長として、率先して初登頂に導き自らも第1番に登頂した。

90年は、長野県山岳協会と西蔵登山協会友好協会締結3周年を記念した「蔵色崗日合同登山隊」に参加して初登頂に成功。

90年秋の偵察、91年、92年と続いた日本山岳会とのナムチャ・バルワ合同登山隊では、いずれも中国側の隊長として活躍し、92年は二次隊として初登頂に成功したことは記憶に新しい。

93年からは14座隊の隊長を務め多忙な日々を送っている。ラサで奥様と二人住いで、子供はいない。 「子供がいると山に登れない」と笑った。

桑 珠 (SANZ ZHU) 1953年11月15日生れ 1975, 5,27 チョモランマ (8,848m) 登頂 1977, 7,30 トムール (7,435m) 登頂

1986, 4,28 ニンチン・カンサ(7,206m)初登頂 1990, 5,19 ザルセル・カンリ(6,460m)初登頂

1992,10,30 ナムチャ・バルワ(7,782m)初登頂

21世紀の夢

ヒマラヤ九ヶ国「最高峰」全山登頂

今春、世界最高峰には南北合わせて100名以上が登頂し、その最高峰の延べ登頂者数も1000名を超えた。その「登山」の一部の模様は国内でもテレビによって紹介され、現在の世界最高峰登山の実態が晒されると同時に、一般の登山者には今や世界最高峰は誰にでも登れるかのような印象を与えた。

また、ヒマラヤに存在する八千メートル峰14座 登頂者もR.メスナー、W.ククチカ、E.ロレタン、 C. カルソリオ、K.ヴィエリッキの5名となり、 アジアでは韓国勢と中国勢の一番乗り争いが急で ある。

ヒマラヤとは直接関係がないが、「七大陸最高 峰」とか「七大州最高峰」登頂達成のためには、 世界最高峰の登頂が絶対必要条件のことから、な りふり構わず挑戦する人も話題にもなっている。

ヒマラヤは、19世紀後半になって、ようやく登攀の対象として登場した。20世紀前半は世界最高峰への挑戦の歴史であったが、戦争で一時中断し、戦後早々に最高峰の初登頂も含めて八千メートル峰の初登頂とバリエーション・ルートの開拓、魅力ある七千メートル峰初登頂時代が続いた。そして、この世紀後半は前述したように、個人による八千メートル14座制覇の時代であった。

では、次の世代がヒマラヤを舞台に夢を馳せる 21世紀には、どんな課題があるのだろうか?

私は、次の21世紀に活躍する世代には、次の課題にトライして貰いたいと思っている。その課題は、

「ヒマラヤ9ヶ国最高峰全山登頂」

HAJでは「ヒマラヤ」には、他の地域にない特色である「七千メートル峰」の存在があることを重視して、その活動の範囲を「7ヶ国(ネパール、インド、パキスタン、中国、アフガニスタン、ブータン、ソ連」としてきた。したがってモンゴ

ルやミャンマーは活動の対象から外して来たのである。しかし、1991年ソ連邦が崩壊し、この地域の七千メートル峰が、ソ連邦から独立したカザフスタン、キルギス、ダジキスタンの三つの国に分かれる結果となった。このような経緯からHAJの「ヒマラヤ」は必然的に「9ヶ国」となり、活動の対象からロシアは外れたのである。

ヒマラヤ9ヶ国の最高峰は下記のとおりである。

- 1. 中国 チョモランマ (8,848m)
- 2. ネパール サガルマータ (8,848m)
- 3. パキスタン K 2 (8,611m)
- 4. インド カンチェンジュンガ (8.586m)
- 5. ブータン ガンカル・プンスム (7,570m)
- 6. タジキスタン イスモイル・ソモニ(7.495m)
- 7. アフガニスタン ノシャック (7.492m)
- 8. キルギス ポベーダ (7,439m)
- 9. カザフスタン ハン・テングリ (7,010m)

ハン・テングリについては、二つの問題が存在する。その一つは標高の件である。従来の標高である6,995mが、1989年の天山開放に当たって旧ソ連邦が現在の7,010mに改訂したことによって七千メートル峰に昇格したのである。しかし、二つ目の問題とも関連するが、中国側は6,995mを採用している。ハン・テングリは現在カザフスタンとキルギス両国の国境となっているが、中国から発行されている「中国登山指南」には「汗騰格里峰」の項目があり、この山は中国とカザフスタンの国境となっている、と記されている。このような資料によって、この山のどこに当該国の国境線が引かれているのか混沌としている面もある。しかし、現在の登山家達の認識としては、中国の国境ではないというのが定説のようである。

このような具体的な例もあるように、「ヒマラヤ登山」は、これまでも国際政治の狭間で実践されており、開放されているからといって安心する

ヒマラヤ九ヶ国最高峰の概要

国 名	山 名	高度	初登頂日	初 登 頂 者 名	ルート
中国	チョモランマ	8,848	1960, 5,25	王富州、屈銀華、貢布	北稜
ネパール	サガルマータ	8,848	1953, 5,29	E.ヒラリー、T.ノルゲイ	南東稜
パキスタン	K 2	8,611	1954, 7,31	A.コンパニョーニ、L.ラチェデリ	南東稜
インド	カンチェンジュンガ	8,586	1977, 5,31	P.チャンド、N.ニマ・ドルジェ	北東稜
ブータン	ガンカル・プンスム	7,570	未 踏	1.00	
タジキスタン	イスモイル・ソモニ	7,495	1933, 9, 3	エウゲーニィ・アバラーコフ	東 稜
アフガニスタン	ノシャック	7,492	1960, 8,17	酒井敏明、岩坪五郎	南西稜
キルギス	ポベーダ	7,439	1938, 9,19	E.グトマン、イワノフ、シドレンコ	北 稜
カザフスタン	ハン・テングリ	7,010	1964, 8,15	キリク・クジミンら5名	東 稜

(ニューデリー)

作図:山森欣一

ことはできないし、国際政治の安定(平和)なくしてヒマラヤ登山の実践も困難になるのである。

その意味からも、ヒマラヤの東と西に存在する ガンカル・プンスム(ブータン)とノシャック (アフガニスタン)は、いろんな意味で困難な課 題であると思う。しかし、登山の基本は、困難に 立ち向かうことにあるのであるから「意思ある者 には」自ずと道は開けてくるだろう。

(文責:山森 欣一)

(ラサ) ●

ガンカル・プンスム

(ティンプー)

カンチェンジュンガ

(注) 初登頂日と初登頂者名は、その国からの初の記録である。例えば、ハン・テングリの山そのものの初登頂は南側のキルギスから1931年9月11日に西稜から行われているが、あくまでもカザフスタンの最高峰としてのハン・テングリの初登頂を載せてある。中国、インドについても同様である。また、タジキスタンのイスモイル・ソモニはかってのコムニズム峰である。詳細はP9参照。

ネパール

(カトマンズ)

インド女性隊初 トランス・ヒマラヤ横断の旅

1997年秋、インド女性初のエヴェレスト登頂者 バチェンドリ・パル率いる女性隊が、アルナチャ ル・プラデシュから東部カラコルムまでの歴史的 なトランス・ヒマラヤ構断の旅を成し遂げた。ブー タン~シッキム~ネパール~クマオン~ガルワー ル~キンナウル~スピティ更にラダックを越え、 9月2日、シアチェン氷河源頭のインディラ・コ

K.

ヴィネータ・ムニ ルに到達した。この隊は、インド独立50周年記念 行事の一つとして特別に編成されたものである。

バチェンドリ・パル隊長以下の隊員は、チョー ラ・ジャギルダー、チェトゥナ・サフ、ヴィネー タ・ムニ、スミタ・ロイ、ナンダ・パテル、マリ カ・ヴィルディそれにコキラ・スダの7名で、ター タ冒険旅行財団とタータ鋼鉄会社が後援した。

しかし、クマオンで隊員の内ヴィネータ・ムニ、 スミタ・ロイ、マリカ・ヴィルディの3名が本隊 と袖を分かち、ヒマラヤン・クラブの後援の下、 8月20日、カラコルム峠に到達した。

以下はヴィネータ・ムニによる記録である。

私たちがボムディアからの道を見つけたのは、 寒々とした2月4日の朝の事であった。ツェラ峠 を越え、有名な僧院で知られるタワンからカムダ ンに至り、ブータンへ入国した。

これから私たちは、僧院の国ブータンの17地区 の内 9 地区を歩いて通過する事になる。州政府の 来賓として私たちは、タシヤンシェ地区のダンガ 峠、ルントゥシ地区のトゥルムシン峠、ティンプー ンゴラカの通過を特別に許可された。

地区のプム峠とジャレ峠それにサムツェ地区のパ 私たちがブータンの密な竹林を通り抜けている 間も、針葉樹の森の中では冬の証拠のしるしに氷 トランス・ヒマラヤ概念図 中国(チベット) メネル ・ベシサ ハール ・カト カンチェンジュンガ

柱が鍾乳石の様に枝から垂れ下がり、寒さがだら だらと続いていた。しかし、シッキムに近づくに つれて、春の気配がし、気候が暖かくなってきた。

ガントクそしてヨクサムへは車道をテクテク歩いたが、私たちはじきにネパールとの国境ラトン 峠への登りで登山技術を駆使することになった。 3月に氷河上を横断するのは、薄く積もった雪が 私たちをあざむくようにクレヴァスを覆い被して おり、なかなか気を抜けない作業だった。

私たちの苦心の努力は、その途方もなく素晴らしい眺めのネパール側のヤルン氷河に降りた時報われ、その素晴らしい眺めは最上のキャンプ地へと続いていた。東部ネパールのヤンポデンへの谷へと下降している時、めったに見つからない神秘的な雪豹の足跡を見かけた。

東部ネパール地区をうねうねと通過し、私たちはようやくロード・ヘッドのジリに到達した。ジリから首都カトマンズまでは、徒歩で4日間ほどかかる。ネパール国内でのトレック続行のために気合を入れてアレンジをし終えてから、私たちは、常にアンナプルナ山群を背後に臨みながらのトレッキングで多くの人々に親しまれているアンナプルナー周コースの玄関口でロード・ヘッドの古い都ベシサハールへと移動した。

私たちはチベット国境近くのトラン峠を越え、カグベニから西部ネパールのドルポへと進んだ。サングダ峠を越えてティムルグマ村、ドゥナイ〜ジュムラと西部ネパールの遥か奥の地区へと進んだ。この地方は道路事情があまり良くはなく、ハー

アータン マルナチャル・ナラデジュ州 ・ボムディア

ドなトレッキングの日々にしては食料の供給が不十分であった。しかし、グパ・ポカリから遠望したマカルーや他の8千メートル峰の眺めは全くもって忘れることができない。

シヴリパカ、ボティ・レクを横切り、ついにダル・レクを越えて私たちは、6月7日、ダルチュラでインド・ネパール国境上に立った。歩き初めて、実に124日目であった。

ダルチュラは、他の道と同様に里程標を意味している。厳然たる指揮の性格や組織の機能の在り方、個人的な撮影許可などの諸問題に違和感を覚えた私は、U. P州ムンシャリ出身のマリカ・ヴィルディとジャムシェドプール出身のスミタ・ロイの2人と一緒に、本隊と別れてスピティへの道を選んだ。6月16日、"高地ヒマラヤ横断踏査"の新しい名称を掲げた私たちは、ヒマラヤン・クラブの後援の下で、計画を敢行すべくムンシャリを出発した。

私たちは変幻きわまりない風景の中、いろいろな体験をしながらトレースを伸ばして行った。古代Teythus Seaの海底であり海の化石類が発見されたラプタールで、私たちは6千万年もの昔に思いを馳せ、感激した。私たちは、クマオンを横断し、ガルワールへと入った。ガルワールでは、ヴュンダール・カルを越えてフランク・スマイスの探検で名高い花の谷ガルワールに入り、更にクント・カルを越えて聖地バドリナートに到達した。

その後、バドリナートからカリンディ・カルを越えて、ガンゴトリを目指した。文字通り私たちの冒険の"ハイ・ポイント"は、標高3千メートル以上の峠36有余を越える事にあった。私たちにはクサン・ドルジ・シェルパとパサン・ドルジが同行していた。雲を突いて聳えるカメットの姿が、私たちの心に焼き付いた。幸運にも、私たちが峠を越えるまで好天が続いていた。ヴァスキ・タールからゴームクを越えてチャトランギ氷河に至る道はとても長く、下降を続けていくとガンゴトリに到達した。雨期となった事はよく分かった。バギラティ川は猛烈な音を立てて激流と化している。ジャレンドリ谷からラムカガ峠を越えると、ヒマチャル・プラデシュ州のチトゥクルに着いた。

チトゥクルからは車道を歩きカプヌに着き、カ

プヌから美しい森の中を辿ると、ババ峠に着いた。 ババ峠で私たちは、四つ足の" 共犯者" スンデリ とカルを紹介された。この二頭の馬は、私たちの 余分な荷を運んでくれた。

ババ峠を後にすると、まるで大蛇が谷沿いにう ねりながら進んでいるようなピン川がきらめいて いる、起伏の多い地形のスピティに入った。2日 間かけてゲリンとカジャを経由し、パラン峠の麓 に辿り着いた。ラダックとの境のノルブ・スムド ウへとキンナウルの谷を通りぬけ、壮観な地形や 独特な建築物に感銘を受けた。この地方は豪雨で 雨の陰に入っていたにも関わらず、私たちはこの 場所がわかった。道は平坦になったものの、パラ ン峠を過ぎてからは、距離の長さと飲料水不足の ため、歩き続けるのはかなり大変であった。

カルゾクを過ぎてから私たちは、ギャメル峠と マンダ峠それに更にもう一つの峠を越えてレーに 続くウプシに行くことにした。8月5日、ついに 私たちは、レーにたどり着き、カルドゥン峠越え の準備をした。

カラコルム峠に至る道は"骨の道"と呼ばれて

いる。かつてヤルカンドの人々はメッカへ向かう ためにこの道を通り、冬の訪れる前にこの道を再 びヤルカンドへと帰っていった。大雪や苛酷な環 境、食料や飲料水の不足のために、多くの人々が この路上で生命を失った。

精神年齢の若く熱気あふれる59歳のジーン・トー マス氏が、レーで私たちのサポート隊のメンバー として加わった。インド陸軍やラダック偵察隊は 私たちに大変友好的で、私たちの踏査のための食 料やテントを供出してくれた。サソマからはウム ルンを経由してサセル峠やスキャンポチェを越え た。更にチョンタシュそしてムルゴを経由してデ プサン峠を越えた。1997年8月20日、私たちは、 分岐路からポルを越えて、ついに中印国境のカラ コルム峠に立った。実に198日間4.500kmを歩き通 したことになる。

世界の屋根を横断する長い旅のグランドフィナー レを迎えた。それは体力よりも忍耐力の試練であっ た。身体的感情的そして精神的な数々の体験は、 私の人生の楽しい息抜きの一コマとして記憶に残 るだろう。(H. Cニュースレター51号より訳出)



毎月15日発売(場談別) 定価700円 ■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売 店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店 で承ります。

直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用 紙に「岳人何月号」からとお書きのうえ、 送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、 ご送金ください。

郵送料は124円です。年間購読料は8,900円 で送料は当社負担です。

お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたら お取り替えいたします。

98年

★ 1月号 ぼくの好きな雪の山小屋で 2月号 粉雪わけて爽快山スキー

★ 3月号 駅から登るとっておきの山 4月号 新緑と残雪を求めて5月の山

★ 5月号 山の本、名作をめぐる春山紀行 6月号 高層湿原、もう一つの尾瀬へ

★ 7月号 夏は北海道の花と渓流へ 8月号 真夏に涼を求めて、高原へ

9月号 初秋の単独行の山歩き

★10月号 上信越の紅葉をさぐる 11月号 名峰を訪ね、冬枯れの温泉へ

冬山入門、心構えと特選コース

(★は特大号となります)

東京新聞出版局(中日新聞)〒108-8010 東京都港区港南2-3-13 IEL 03-3/40-26/4 東京本社)全国の書店で発売中/中日新聞販売店でも取りつぎます

12月号

地域ニュース

《中国》

中国でも大学山岳部が活躍

7月22日ラサの登山協会倉庫でニンチン・カン サ隊の出発準備をしていると、5~6人の若者が 荷物をトラックに積み込みそのまま乗って去って 行った。聞くと、北京大学の若者でニェンチェン タンラ (7,1 m) に入山すると云う。このチームは14名であった。

北京大学の別のチームは、今春チョー・オユーにトライし3名が登頂に成功している。また、清華大学チームも今秋チャンツェ(7,5 m)に入山する予定とのこと。これらの大学登山隊は、ほとんどが中国登山協会や地元の登山協会の支援を受けており、その他にもスイスの企業も積極的に支援を行っている模様である。 (山森)

ニンチン・カンサ隊初登攀に成功

HAJが派遣した中国、チベットのニンチン・カンサ登山隊(関根幸次隊長ら10名)は、8月15日新ルートである西稜から3名が初登攀に成功した。

登山隊は7月21日ラサ入りしたが、隊員の1名が体調を崩し帰国した。残る9名はランカズーに移動し、高所順応活動を行い27日に西面の標高約4.800mにBCを建設した。

連日の悪天候に妨げられて登山は計画通りに展開できず困難な状況にあったが、8月1日5,900m地点のコルにC1を建設。西稜の登攀となるも思うようにルートは伸びず悪戦を強いられC2が作れない状況となった。

止むを得ず6,350m地点に設けた仮C2から15日、田村正勝(55)、武部秀夫(45)、山本強(42)3隊員がアタックを敢行。12時間の苦闘の末、初登攀に成功した。

登山隊は20日大雪の降る中、BCを撤収し同日 23時ラサに帰着した。

ラモ・シェ隊登山断念

HAJが派遣した中国、四川省のラモ・シェ登山隊(酒井國光隊長ら9名)は、4,850mで登頂を断念した。一行は8月1日成田を出発、4日には登山基地である康定に到着した。翌日はラオイーリン(3,040m)で馬を集めるため停滞。7日20頭の馬に荷を積んでリャオ・ハイズーから上部の4,300mにBCを建設した。8日からモレーンを登って上部の偵察を行い、10日4人が4,750mのC1入りしたが、晴天となったこの日、山の全ぼうを観察した結果、ルート状態の悪さから断念を決定した。

チベット初の鉄道計画

8月5日付の上海紙「文匯報」によると、中国 鉄道省は標高が富士山に近いチベット自治区ラサ と雲南省を結ぶ鉄道の建設に関する現地調査を認 可、同日から調査をスタートさせた。これで、中 国の省レベルの行政区で唯一鉄道がないチベット にレールが敷かれることが現実味を帯びてきた。

計画によると、鉄道は雲南省中部の大理市から 北上、チベット入り後、西進して区都ラサ(海抜 3,650m)に至るルートで、総工費636億元(約1 兆1400億円)。チベットから沿海に行く最短路線 となるとともに、計画中の中国とタイ、ミャンマー を結ぶ鉄道の重要路線としても期待される。

中国は50年代からチベットでの鉄道建設を計画 してきたが、ここにきて具体化した背景には、景 気対策としてインフラ投資の強化策を打ち出して いる事情もあると見られる。

(1998.8.6 読売新聞)

(編注) ルートとしては、大理〜昌都〜那曲〜ラ サが考えられる。八宿〜林芝〜ラサは高度は低い

ものの崖崩れの難所 があるため現実的で ないと思われる。



梅里雪山で遺体発見

1991年正月に中国、雲南省の梅里雪山 (6,740 m) で日中合同隊 (日本側京都大学) の17名が雪崩遭難したが、このほど地元の猟師によって遺体が発見された。発見された遺体は最終的に6人で、中には氏名が特定できるものもあるという。遺体は寝袋に入ったまま発見された。京都大学山岳会では遺体収容のため4人を現地に派遣した。

ナムナニ登頂

日本山岳会福岡支部が派遣したナムナニ登山隊 (太田五雄(57)隊長ら4名)は、6月6日ザロンマロパ氷河から隊長とシェルパのパサン、デンドゥの3名が登頂に成功した。第三登と思われる。

《ネパール》

エヴェレスト 瓶入り飲料禁止

ネパール観光省は、8月15日エヴェレストとその山麓一帯の環境保護のため17日から入山者が、びん詰めのビールや清涼飲料水を持ち込むことを禁止すると発表した。

世界的な登山、トレッキングの大衆化でエヴェレスト山系には日本を含めて世界各国から年間約4万人が訪れる。年間に約10万本のビール、コーラなどの清涼飲料水が消費され、捨てられる空きびん類は計50トンにもなる。アルミ缶の場合は、回収業者が有料で買い取るため村人も回収に熱心だが、びん類は金にならないため放置されている。エヴェレストのBCからナムチェにいたる道筋、村々にも数万本の空びんが散乱し、深刻な環境問題になっている。

エヴェレスト山麓の宿場町ナムチェやクムジュンの簡易ホテルなどが客にびん入りの飲み物を売ることは不可能となった。 (8.17 朝日新聞)

《パキスタン》

郡山労山、GIで遭難

GI登頂を目指していた郡山労山隊(熊田一徳

隊長(43)ら4名)は、C3(7,100m)で7月30日 兵庫岳連隊に会ったのを最後に全員が消息を断ち 行方不明となった。他の隊員は渡辺孝(40)、橋谷 田義文(31)、内藤和俊(30)の3名。

ナンガ・パルバットで連難

太陽と風の会がナンガ・パルバット(8,126 m) に派遣した登山隊(大宮秀樹(26)隊長ら4名)は 西面からの登頂を目指していたが、7月26日大宮 隊長が落石のため連難死亡した。

E・エスコフィエ行方不明

フランスの登山家エリック・エスコフィエ(37)、パスカル・ベシェレイズペアはブロード・ピークにアタックし、7月28日に7,800mの中央峰とのコルで雪洞ビバーク、翌29日10:30にコルの少し上を登っている2人の姿が同峰に登山中のポーランド隊に確認されたのを最後に10日間消息を絶っている。

エスコフィエはヨーロッパ・アルプスで数々の 難ルートを単独でスピード登攀し、1985年にガッシャーブルム I 峰 $(8,068\,\mathrm{m})$ 、ガッシャーブルム II 峰 $(8,035\,\mathrm{m})$ と K 2 $(8,611\,\mathrm{m})$ の三座を一気 に上り世界を驚かせた。翌年シシャパンマ $(8,027\,\mathrm{m})$ を登った後はヒマラヤから彼のニュースを聞く事 は無かった。

昨年10月チョー・オユーを登り、今年の春はネパールでマカルー(8,463 m)とダウラギリ I 峰(8,167 m)を登山する予定だったが、天候が悪く断念。カラコルムに向っていた。

彼は西暦2000年の春に、人類最初の8千m峰、フランス人の山アンナプルナ I 峰 (8,091 m) で8千m峰14座、5大陸最高峰。南、北の極点(エヴェレストを含めて3極点)を達成するプロジェクトを進めており、ブロード・ピークを終えた後にナンガ・パルバット (8,126 m)、秋にマナスル(8,163 m)、11月には南極大陸の最高峰ヴィンソン・マッシフから継続して南極点へ向う予定だった。1960年8月9日生まれの享年37歳。

《タジキスタン》

コムニズム峰が消えた

タジキスタン政府はこのほど、同国中部にあるパミール高原最高峰のコムニズム峰 (7,495 m)を「イスモイル・ソモニ峰」と改名した。9世紀のタジク人国家創設者の名にちなんだもの。同峰は時の元首スターリンの名がつけられたが、彼の死後はコムニズム峰と改名されていた。

91年に旧ソ連から独立したタジキスタンでは、 建国1100周年を前に民族意識の高揚を狙い、公共 機関や通りなどの改名ラッシュが続いている。

(8月4日 読売新聞他)

(編注) 読売新聞では8月9日付朝刊の社会面「現場発 電子メール4通の遺志」と題してタジキスタンで凶弾に倒れた秋野豊さんの報道記事の中で早速「イスモイル・ソモニ峰」の名称を使用している。推察すればキルギスとの国境にある「レーニン峰」も改名されている公算が大きい。

《キルギス》

レーニン峰で遭難死

レーニン (7,134m) に挑んでいた仙台 Y M C A 山岳会隊 (今出隆康隊長他 3 名) の佐藤広史隊 員は、C 2 (5,150m) で 8 月13日高山病のため 死亡した。

ヒマラヤから

ニンチン・カンサ便り

私たちは24日15時に広々としたランカーズに着きました。マイナス四ツ星の招待所は長く泊るところではなさそうです。25日2パーティに分れ、関根、伊藤、田村、武部と楊連絡官、通訳の6人でBCを見に行って参りました。BC予定地から5,978mへのガレ場のルートがポイントで、コルからの雪稜は素晴らしく、登攀意欲が出てくる好ルートです。西稜はキャンプの設営は問題ないと思います。朝のうちは雨でしたが、カロ・ラから晴れ出し、西面の全容が見られ、十分役割をはたし帰りました。27日予定通りBCに入ります。

1998.7.25 ランカーズにて 関根 幸次

ムスターグ・アタ便り

中国の西の外れカシュガルよりお便りさせて頂きます。このたびは私達リコー山の会ムスターグ・アタ登山隊に対し、暖かいご支援を賜り、誠にありがとうございました。

「穂高」の夜から2年!私達がここまでこられた のも皆様方の絶大なるご理解ご協力によるものと 感謝致しております。

明日から本格的な登山活動に入りますが、安全 登山を念頭に全員で7,546mの頂に立てる様努力 してまいります。 (1998.7,27 中谷 正秀)

BOOKS

エヴェレストの女たち

続素美代氏が日本人女性として3人目のエヴェレスト・サミッターになったのは記憶に新しいが、23年前の5月に田部井淳子氏が女性初登頂に成功してから昨年末まで、実に41名の女性が世界最高峰の頂を踏んでいる。

本書は、単なる登山記録を追ったものではなく、 「エヴェレストは- (中略) -時代が、地域社会 が、女性をどう扱ったかを見るための巨大な計測 器」という考えの基、様々な角度から女性サミッ ター達の生き方に迫っている。中でも第三章「エ ヴェレスト女性サミット一九九五」の講演・質疑 応答の内容、第六章「エヴェレスト女性登頂者へ のアンケート」の回答内容が興味深い。エヴェレ スト登頂への意気込みや、自分が女性である事を どのように意識しているか等、まさに登頂した年 代や生まれ育った環境によってはっきりとした違 いが出ている。女性読者なら(登山家でなくても)、 彼女達のうちの誰かの言葉、或は行動に心底共鳴 できるものを感じるかもしれない。因に評者の心 に一番残ったのは、インド人女性初のサミッター、 バチェンドリ・パルが、1995年サミットの講演会 で、「男女混合隊の場合、本当に男女平等に登れ るか?」との質問を受けた時のこの答えである。 「女性の方が軽んじられるのは事実。女は初めか

らそれを頭に入れて十分に計画を練るに尽きます」 様々な年代、国籍の女性登山家達の登山観を一 気に目にする機会は滅多にない。女性に限らず、 男性にも読んでほしい。特に、真摯な女性クライ マーと組む機会のある男性に。 (菅原 愛里) B6判 286頁 田部井淳子編 山と渓谷社 1998年7月15日刊 1500円

ナンガ・パルバット

ナンガ・パルバットに魅せられた1人の岳人が その夢を実現する。その男は千葉工業大学山岳部 OB会の坂井広志。坂井はナンガ・パルバットと 対峙するに当たって次のことを決意する。

- 1. 新ルートであること。
- 2. 高所ポーターを使わないこと。
- 3. 医療用酸素以外は使わないこと。
- 4. 募金や寄付などの金銭や物量に頼らない。
- 5. 隊員は行きたい意思を持つ者のみとする。 本書はその報告書である。

隊員には坂井の先輩である2人も参加した。し かし、全日数の参加ではない。6,700mにС3が 設営された後で、C1~C2間で落石事故が発生 し、1人が重傷を負う。その救出作業を終えて登 山隊は当然のことながら最大のピンチを迎える。 行くか、退くか。隊長の悩みは察するに余りある。 1隊員の決断とは訳が違うからである。1人の先 輩のアドバイスが隊長の決断につながった。「G 〇!」である。こうして、新ルートから3人が初 登攀に成功した。しかし、下山に地獄が待ってい た。登頂隊の1ビバークを含めて、上部キャンプ の6人がBCへ撤退する中でС1宿泊を毅然とし て拒否した隊長のリーダーシップに教えられるこ とが多い。エクスペディション全体をリードした 坂井のロマンチズムが登攀にも本書にも生き生き と現れていると思った。

20年前のパキスタンのEXPはほとんどが、前述の坂井の5要素の内、4を除けばこのようなEXPだったのであるが、現在はそのような状況にない訳で、それ故に一層本書の主人公達が光る。

HAJでナンガと言えば角田不二である。その 彼が計画書に残した言葉は [歴史がある。その歴 史に登場する人物が一流である。その姿。帝王の 風格。そしてルート。(角田はルパール壁) ラインの美しさ。豪快なフォルム。] と書いた。まさ にアルピニストが魅了されて止まないものがナンガ・パルバットには存在するのだろう。(もっと もディアミールはそんなことを言ってはいられないようであるが。)

全編カラーで坂井が報告を書き読み易い。先輩による千葉工業大学のEXPの変遷は、かってのヒマラヤを知らない読者には参考になるし、それぞれが綴る手記はどれをとっても興味の尽きないものである。市販という形であるので、報告書につきものの資料は掲載されていない。ナンガ・パルバットの中黒があったりなかったり、クレバスなのかクレパスなのか統一があった方がよい。

(記:山森)

B 5 変形判 95頁 カラー68頁 カバー付 1998年7月23日刊 成文堂 価格 2,381円+税

チャウチャウカンニルダ

群馬県高体連が1997年に派遣した登山報告書。 山はインドのスピティ地区にある。誤った情報の ために1年延期したと報告にある。この点に関し ての隊としての見解が詳細に報告されているので インド登山を計画している方は参考にされたい。 なお、本登山隊ではホームページを開いている。

http://www.tohgoku.or.jp/gte/ B 5 判 124頁 (カラー10頁) 1998年 6 月 1 日刊

〒377-0044 渋川市上郷2684 渋川女子高校内 群馬県高体連登山専門部 FAX 0279-24-9541

東京集会のお知らせ一

日 時 9月28日(月)午後7時~

内 容 ニンチン・カンサ隊の報告です。

場 所 HAJルーム (地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分) 又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

8,848m峰を登るために

── 東北地区海登研シンポジウム ──

世界最高峰の登頂ラッシュが続いている。今更人混みの中での登山でもあるまい、との世間の冷い視線をよそに、最高峰に想いを寄せる人々は必死に情報を求めている。

折りしも12回目を迎えた「東北地区海外登山研究会(東北6県+新潟県の集まり)では、[8,848 m 峰の魅力] と題するシンポジウムを開いた。これは同会が母体となって、2000年春にチョモランマのノーマルルートに登山隊を派遣することが決定されているための勉強会としての意味合いもある。今回の研究会はHAJとの共催でもありシンポジウムの模様を誌上にて紹介する。 (記:山森 欣一)

■パネラー(敬称略・順不同)

(古野 淳 36歳) 日本大学山岳部OB '84カンチェンチュンガ '86ヒマルチュリ '95チョモランマ北東稜、他 (早川晃生 41歳) 東洋大学山岳部OB '85冬季チョモランマ北壁 '87チョー・オユー、'90サトパント、他

(後藤文明 33歳) 群馬県山岳連盟 '87プモリ '90サトパント '93チョー・オユー 冬季サガルマータ南西壁 '97GⅡ、BP他

はじめに

司会 東北海登研では2000年にチョモランマ登山を計画しているということもありまして、本日は「8,848m峰の魅力について」をテーマとして、講師(パネラー)の方々にいろいろ教えていただきたいという目的で企画いたしました。海登研では毎回、講師をお迎えしておりますが、今回も経験豊富な方々をお迎えし、大変感謝申し上げます。

「8,848m峰」としましたのはエベレスト、チョモランマ、サガルマータといろんな呼び方がありますので、それぞれの呼び方で結構です。では最初におおまかなテーマではありますが8,848mの魅力について、まずは古野さんの方からお願いします。

古野 95年の日大隊で、当時未完登の北東稜を登山し、登攀隊長を勤めた古野と申します。8,848 mの魅力につきましては、1980年に日本山岳会が北側から初めて入りまして、やはりチベットへの

(田中純夫 49歳) 日本山岳会 海登研副代表 訳書 E・シプトン「エベレストー1951年の偵 察遠征」、他 主な論文「いわゆる [絶頂の超 越] についての一試論」「ヒマラヤ雑感」など

■司 会

(八嶋 寛 48歳) 海登研副代表 HAJ理事' '81カンチェンジュンガ '89中国側GI 2000年東北海登研チョモランマ登山隊長(予定)

憧れというものを、その頃から私も抱いておりました。メスナーが単独無酸素で登って、いわゆるパイオニアワークは意義を失ってしまいましたが、1992年に山学同志会の大宮さんが北東稜に遠征されまして、私も個人的にはどうしても登りたいと思っておりました。たまたま日大山岳部の70周年記念事業として何かやろうということで、北東稜遠征が実現しました。大きな登山隊になってしまったわけですが、個人的にはなぜエベレストなのかと考えた場合、初めにこの尾根を登りたいという以外に考えられなかったということで、特にエベレストに固執したわけではありません。

今年のゴールデンウイークにチョモランマのベース・キャンプに入っていましたけれども、今年も北面に20隊入山してまして、大変なにぎわいでした。最終的に今年の春だけで80人近く登頂して今までで最多だと思います。(今年の春で登頂者は総数1000名を越えた)それだけ世界中から人が集まるという、この魅力はずっとこのまま、増えて

▼日大OB·古野 淳氏



いくと思います。公募隊に代表されるように、個人でも登頂可能になったということもあり、過去に登頂を諦めながら、再び登頂をめざしたいという人が世界的に増えていると思います。このような状況ですので、エベレスト登山に対する考え方も変えて行かなくてはならないと思います。

早川 私は頂上までは行っておりませんが、85年に冬のチョモランマの北壁から、カモシカ同人隊で参りました。その前年にもカモシカ同人隊でチョモランマを南北から登るという計画を立てまして、ローツェとエベレストは成功してますが、北壁は登れなかったということで、再度冬の北壁を登ろうということになりました。

世界最高峰であること、北壁であること、なおかつ厳冬期であることが我々にとってチョモランマを選んだ大きな理由だった訳です。

チョモランマ北壁については日本山岳会が最初に遠征した際登られていますが、いまだ厳冬期の北壁が完登されたという記録は出ておりません。おそらく当時も現在もこれからも冬の気象条件は変わるものではないし、我々も結局8,460 mまでしか到達できませんでしたが、その後も挑戦しようという人間は出てきておりません。それだけ過酷であったと思います。

遠征隊の方々にもアドバイスさせていただくこともあるんですが、頂上までフィックスするようなタクティクスは組みません。最後は自分達の力で最終キャンプからアタックするというタクティクスが一般的になっていると思うんですが、その際に一番大事なのは基本的な技術をしっかりと守って頂上まで行くことですね。力の有るメンバーで

あれば、自分の命は自分でという登り方があるのかも知れませんが、重大な事故も多発しています。 きちんとお互い確保しあって登るということが、 最後には一番大事になっていくだろうなと思います。

後藤 群馬県山岳連盟の後藤です。93年、サガルマータのネパール側から、南西壁を登りました。 群馬ではダウラギリ、アンナプルナなど10年計画という形で最終的にサガルマータになったのだと思います。私の動機としては、群馬県山岳連盟の海外登山研究会に入っていたという、そんな簡単な動機なんですけれども、やはり世界一の山に行ってみたいという気持ちがありました。

田中 私はチョモランマに行ったことはありませ んが、今回のシンポジウム企画者の強い要請も有 り、また海登研のメンバーということで、なぜ我々 が数年掛けてチョモランマ計画を進めて来たか、 このへんの話をせいということでないかと思って おります。なんとなくメンバーが集まってチョモ ランマということになった訳ですが、私なりに整 理してみますと、さきほどの地元の方のご挨拶に もありましたように、泉ケ岳(仙台市近郊の山 1,172m)の頂上からの展望がチョモランマと同じ く感激するというのはあながち冗談ではないと思 います。私ども山に登ってまして、楽しいことが あれば感激するわけだし、仕事とかやりくりしな がら、危険な思いをしながらも山を登っているわ けです。こういうやむにやまれぬ衝動っていうの は一体何なのかと思うわけです。私の場合、皆様 もそうだと思いますけれども自分の先輩、先人の 書いたもの、日本の山について言えば有名な方々 の本がたくさんあるわけです。木暮理太郎とか、 小島鳥水とか、どんどんあたらしい記録も出てい ますが、古典は読みつがれている。それはなぜか というと、標高の低い山の記録でも、そこには非 常に感激があったと思うんです。感激があり、感 動があり、不安もある。本当に精一杯がんばって 書いた記録には非常に説得力があります。

日本の山っていうのは3,000 m級までしかないし、狭いですから、パイオニアワークはわずか50年たらずで終わってしまうわけです。せっかく芽生えた、山における人間の内面の表現が芽生え始

めたところで終わってしまったというのが日本の 実態だと思います。その後は記録は残りますけれ ども、先人に匹敵するような表現があるかという と、現代は無いような気がするんですね。その点 ヨーロッパではアルプス、コーカサス、アンデス、 ヒマラヤと続く。その大きな流れでいくと、「チョ モランマ」っていうのは巨大なエポックな訳で、 すべてがここに集約されると思います。アルピニ ズムは1953年に終わったという人もたくさんいま す。戦前イギリス隊がチョモランマにかけた執念 はすごいものがあります。私なんかは古いタイプ で、今の人はもっと軽やかにヒマラヤに行ってい るんだと思いますけど。チョモランマ登頂という のは人類にとってはまさに大エポックなわけで、 その感動はすごいものがあります。その感激をめ ぐって膨大な文献が存在します。一つの山につい ての文献で、チョモランマの右に出る物はおそら く無いとおもいます。そこにはドラマがあり、歴 史があり、なぜ登るのかという解答は出てこない だろうけど、その手掛かり足掛かりなど、共感で きるところがたくさんある訳です。みんな山好き な連中が集まって、やっぱりチョモランマだった んだと思います。歴史の現場に立ちたいという欲 求もあります。私は実際行ってはいませんので、 その点を経験者の方にお話を聞きたいと思ってお ります。

現状と指向について

参加者 秋田の伊藤です。講師の方々はバリエーションを登られておりますが、これが2登目3登目だったら、やはり遠征されたのかなと思うんですが。

古野 私は最初からこの尾根以外考えておりませんでしたので、既登であれば行かなかったです。 早川 今現在のヒマラヤ登山は、単独による登頂、人間がここまでできるものかというような過激な方向に進んでいます。当時できる範囲で、一番厳しいことはなんだろうなと考えたところ、厳冬期の北壁だったわけです。それがノーマルルートから、通常の時期に行くのであれば、おそらく行かなかっただろうと思います。

ただ、登っている最中、かなり成功が厳しいん

▼東洋大OB·早川晃生氏



じゃないかな、と思ったときに、北稜に転身できるんじゃないかな、ということは感じたことはありました。

後藤 私は(南西壁でなければ)行かないと思います。計画しないと思います。

伊藤 現在ノーマルルートから盛んに登られている現状をどう思いますか。

古野 8,848mにはシェルパ含めて1,000人近くのぼっていますが、日本人は60人くらいですね、でもまだ60人くらいなんですね、そんな数なんで、僕が北東稜をめざしたのはちょっと考え方違いますけど、ちょっとやはり考え方を変えなくてはならないこともあると思います。自分たちも70周年記念という記念行事として実行したわけですけれども、なんでエベレストなのかという意義を考えて登山隊を編成するべきだと思います。

8,000 m級の山と8,500 m以上 の山及び無酸素登山について

司会 参加メンバーで目的をしっかり持つということですね。それでは次に、8,000 m級の山と8,500 m以上の山を区別して、タクティクスや組織など異なる点や登る場合の違いを語っていただきたいのですが。

古野 4月に松本で国際医学シンポジウムがありまして、カンチェンジュンガの事故がその直後にありまして、ここ1ヶ月間無酸素登山について考え続けていました。おそらく群馬の後藤さんに聞くのが一番いいんでしょうが、8,500m以上の山と未満の山では、タクティクスも、カテゴリーを完全に分けるべきだと考えています。

▼群馬・後藤文明氏



8.500m以上を無酸素で登れる人っていうのは、 本当に一握りの数だと考えております。谷川君は やはりその一握りの人で明らかに他の人とはちが いますね。あの高所でビバークして、指先を切断 されたようですが。この山 (チョモランマ)を無 酸素で登れる人は先天的に優れていて、いくら努 力してもだめな人はだめ、そういう場所だと思い ます。松本のシンポジウムの話では、細胞レベル、 遺伝子レベルで違うという話です。メスナーはV O₂max (最大酸素摂取量) は49から51だったそ うです。凡人の値なんですけど、この人が無酸素 でエベレスト登ってしまう。以前どなたかがエベ レストの無酸素登頂はオリンピック並のトレーニ ングを積まないと登れないと書いてあったのを読 んだんですけれど、もうそういう次元の問題では ないと思います。

古野 山が面白いのは7,000mの後半の山が僕は一番おもしろいと思います。もう8,000m越えますと途端に人が増えます。モンスーンや冬にでもいかない限り、もうどこへ行っても自分たちの登山ができないですね。戸高さんの場合、彼は自分の登山ができないということで、今年の夏、2度めですが、チョモランマの無酸素単独に行こうとしています。実際に面白いのは7,000m後半の山だと思います。

早川 8,500mの山は最終キャンプを8,000mに近い位置へもっていかなくてはならない、8,000m前後の山、シシャパンマなどは7,500m以下ですんでしまうという違いがあります。エベレストの最終キャンプを8,200mにもってくるとすれば、もうそこでシシャパンマの頂上にたってしまって

いる。逆にいえば、シシャパンマの頂上の高さに キャンプを設けなければ、アタックをかけなけれ ば届かない山である。エベレストやK2などはそ れだけ難しいということですね。どこに最終キャ ンプをもっていくのか、そこで酸素を使うのか、 そこまで登ってアタックをかける力が残っている かが重要になってくると思います。みなさんは酸 素を背負ってチョモランマにいかれるとおもいま すけれど、酸素ボンベが最後までもつという保証 はないわけですよね。

山の好みとしては、私も個人的には、6,000~7,000mの山ですね、ヒマラヤに限らずアンデスとか、パミールとかの山も好きなんです。そういった山の方がプライベートで、短い日数でいけます。古野さんがおっしゃったように、8,000mの山は人が集まる山ですね。公募隊の中には登山はエベレストしか登山経験が無いという人もいます。それくらいエベレストっていうのは魅力があるんでしょうし、頂上に立つ意味しか残っていないんじゃないかな、という気がします。

参加者 山形の鈴木です。8,000mの山に対して、 人が少ないから7,000m後半の山が面白いという 話で私も同意見なんですが、これは積極的な意味 から7,000m後半の山がおすすめということでしょ うか、消極的な意味から発想する7,000m峰登山 ということなんでしょうか。

古野 たとえば、7,900mで誰もいなくて自分たちの登山隊しか入っていない山と8,100mで20隊入っている山だったら、私は積極的消極的という表現は別にして、7,900mの山を選びます。8,000mの山を何座登るということには、それほど意欲は感じませんね。

司会 みなさん先鋭的な登山をされていますが、 無酸素などのテーマをもっている方もおられるようですが……私どもはそこまでいけませんので、 酸素吸った場合のお話もお願いしたいんですけれ ど。(会場笑)

早川 一つには酸素ボンベを使うとお金がかかるということもありますね。酸素ボンベを使わず安い登山をするというのであれば、7,000mクラスでも面白い登山ができます。たしかに古野さんも8,500mを無酸素で登れるっていうのは一握りの

人間だとおっしゃっていますが、逆に僕は、何回も高所を経験していますとある程度のところまでいけると思うんですよ。僕も年間に $5,000\sim6,000$ mの山を何回かガイドしていますと、1年間くらいブランクがあると、次に行ったときにやはり違ってきます。毎年何回か繰り返していますと、かなりある程度、自分の中に(順応)できているわけです。状況さえよければ、無酸素でも登れるのではないかと思います。

8.848 m を目指す意識

司会 今回このようなテーマを設けましたのも、 東北でも8,000mを登っている人は増えています けれども、段階的に数多く行って登るという人が 少ないですね。最近は8,000mにいける状況がで きつつありますので、全く経験の無い人でも8,000 mに行こうかという人もいるわけです。そこで 8,000mと8,500m以上の山は違うんだよという認 識で行かないと落とし穴があると思います。私も 8,500mの山に登ったことありますけれども、や はりチョモランマは違うんじゃないかなと考えて おります。今いろいろご意見いただきましたが、 参考にしたいと思います。それでは田中さんの方 から8,848mの歴史について何かありましたら、 お願い致します。

田中 今我々はアルピニズムは個人の問題として、 自分がいかに納得して山に行くか、自由な発想で やっていますけれども、チョモランマの初登頂は 個人の発想じゃ無かったんですね。まさに人類、 イギリスならイギリスの国家的プロジェクトだっ たわけです。マロリーだって自分の中でどれだけ 意識的にチョモランマをめざしていたかというと、 ある意味でようわからんといっているのが本音な んですね。当時の登山家たちは8,000m峰は地形 も気象もわからないし、科学的な使命ももってい る。いろんな宿題を負わされて行っていたわけで す。ところが今はいろんな情報があふれていて、 登頂のスタイル、スピードなどが課題になってい る。これはまた、彼らの活躍が楽しみですね、ま あ、状況が厳しいだけに楽しみという表現は適当 でないでしょうけど、自分たちの置かれているシ チュエーションは(初期の登山家と比べて)全く

▼新潟·田中純夫氏



違っているんではないでしょうか。

司会 当時参加した人というのはシプトン、ティルマンなどユニークな人が多いですね。本当に個性的で、当初は遠征隊に加わっていますけど後に自由な発想で登山をやっているという風に。

田中 特に小規模な隊ではそうでしたね。ただそれは探検ですからね。チョモランマ登頂となるとなかなかそういうわけには行かない。新しいところに挑もうとなると、やはり政治力というのも必要ですから、そんな中で小規模な隊もだんだん大規模になっていったのでは……

古野 女性で、今年チョモランマに続さんが登っています。私もちょっと注目しているんですが、女性の登頂者は田部井さん、難波さん、続さんと3人しかいないわけですね。95年に台湾隊の隊長から漢民族の女性を頂上に上げたいという話を聞いて、それはがんばって下さいと様子をみていたんです。男女混成の台湾隊でも、職を失ったりしていろんな想いをもって参加している人もいて、最後はやはり自分が頂上に立ちたいんですね。

隊長が女性をアタックメンバーに入れたところ、男性隊員からすごい批判がありまして、自分より弱い人間がアタックメンバーに入って、どうして自分が頂上にいけないのか、となってしまったそうです。そこまでいきますと、女性が登る登らないではなく、強い人間から順に登っていくという最後の判断をしていかなくてはならないわけです。田部井さんは女性だけの登山隊ですから、女性の中で一番強い人として登ったと、難波さんと続さんは公募隊だから登ったと、このような状況でしか登れないというのも情けないような気がします。

今年の労山隊の女性も惜しいところまでいったんですが、男性に比べて弱いから登れないっていうのは、パイオニアワークが無くなった登山界ではあんまりじゃないかと思います。とにかく女性がチョモランマに登ることで登山に対する社会の眼も変わるんじゃないかと思っています。

気象と通信、防寒装備などについて

司会 次にヒマラヤ、特にチョモランマの気象と いうことでお伺いしたいのですが。

古野 群馬の方は秋がすごく好きなようで…(会 場笑)。ほとんどの方は春が絶対楽だと思ってい ます。私もそう思います。まずアタック日を決め るのが楽です。いったん晴天が続きますと1週間 2週間つづくこともありますし、最低でも1週間 位天気が安定する時期がありますんで、その時期 をねらえます。日が段々長くなる暖かさも挙げら れます。私も秋は経験していますけど、冬とあん まり変わりないなあという気がします。私は冬の 登山は経験しておりませんが、春と比べると圧倒 的に寒いですね。それから、これから夏に向かう という季節と、冬に向かおうという季節の、精神 的なプレッシャーの違いですね。やはり春の方が 絶対有利だと思います。ただし、雪のために春は キャラバンが困難になるという山もあります。た とえば山学同志会の坂下さんがメンルンツェとガ ウリシャンカールに行きましたけどアプローチが 全然だめで、引き返したケースもあります。

気象に関しましては、欧米、特にヨーロッパの 隊では英国の気象会社から気象情報を買っている んですね。高価なもんですから、複数の隊でシェ アして購入しているようです。

司会 さらに具体的にお話いただけますか。

古野 私もこの前初めて聞いたばかりなんですけど、今年のチョモランマでは、テレビ朝日隊が日本気象協会と契約して情報を買っていました。日本の民間会社でもやってくれるという話は聞いております。今年は日本の2隊がシェアしていました。これは何日に晴れるといった情報からその日のアタックをめざしてベース・キャンプを出発すればいいわけです。すべてのリスクはここに集約すると思います。特にこの情報を得るためには衛

星電話がかなり普及しておりまして、欧米の隊では不可欠というところまできています。今はインマルサットがありますけど、今年の秋からイリジウムが始まりますし、2000年にはアイコという、インマルサットの進化型なんですがKDDとかNTTドコモなんかが出資している会社が始まります。大きさも携帯電話と変わりません。今インマルサットがだいたい4、50万です。イリジウムが3千ドルです。2000年にアイコがでれば千ドル位でるだろうといわれています。

通話料もイリジウムが一番高く1分間6ドル、インマルサットが3ドル、アイコはたぶん2ドルくらいだろうといわれていまして、カトマンズで国際電話をするよりやすいんですね。これから私どもも、ビジネスにはならないんですけれど、衛星電話を持ち込むことで、いろんな可能性がでるんではないかということで、いろいろ紹介しているところなんですけれど。

司会 今通信の話がでましたが、いままで無線で やってきましたが、これを電話方式にするという ことは……

古野 無線は無線で、大きな山ではやはり必要だと思います。

司会 ベースから無線が通じないという話もあり ますが……

古野 いや、通じます。ベースに3mくらいのG Pアンテナを設置すれば、簡単に届きます。

司会 仮にチョモランマでなくても、山の陰にま わると通じにくいという場合もありますが、無線 に代えて衛星電話の子機でやるということも可能 なわけですか。

古野 ええ、可能ですね。今のインマルサットだとまだちょっと大きい、ノートパソコンくらいあります。これがイリジウムとかアイコになりますと携帯電話サイズになります。おそらく秋の登山隊ではイリジウムを持っていく隊があると思います。

司会 どうもありがとうございます。話題を気象に戻しますが、群馬は秋が好きだとのことで(笑)、その辺をちょっと後藤さんにお願いします。

後藤 はい、モンスーン開けで晴天がくるという、 その時期を狙って登頂するというタクティクスで す。冬に向かって日が短くなるということもあり ますが、冬はやはり雪が少ないですね。その期間 に向かっているといことで雪は少ないですね。

司会 ポストは雪が多いというのが定説ですが、 場所によると思いますけどね。モンスーン明けで は、どんな登山が記憶にありますか?

後藤 93年にチョー・オユーに行ったときですが、 私たちが入ったときには外国隊が5、6隊入って まして、日本から大きな登山隊がくるから装備は 何も持たなくても良いという感じで入ってました。 私達が遅く入ったんで、外国隊は日数が足りなく なって帰っていったようですね。私たちはモンスー ン明けの晴天も利用して3次隊まで出して成功し たんですけれど、あまり早い時期よりも、遅い時 期のほうが私たちはいい思いをしている、そんな 経験が多いですね。

早川 僕もチョー・オユーは秋に登っていますし、それからチョモランマを冬に登るといっても10月位から入山していますから、ベース・キャンプではまだ暖かいという状況です。11月位からルート工作を始めて12月下旬には断念したんですが、寒さに関しては半端な寒さではなかったです。マイナス30度まで計れる温度計を持っていったんですが、赤いアルコールが30度以下で固まっていて動かないんですね。だからそれ以上計りようが無かったんですけど、ベース・キャンプでも、今日は暖かいから頭でも洗おうか、と思ったらマイナス20度くらいなんです。

我々は酸素ボンベを使用しましたが、ボンベの酸素を吸った瞬間にものすごく冷たい空気が肺に入ってくるわけです。おそらく肺もやられているでしょう。酸素を2、3回吸うと酸素ボンベの口元が凍るわけです。マスクはずして氷を砕いて、酸素を吸う、その繰り返しで馬鹿らしくなります。酸素を背負っていますけど、マスクをはずして、酸素を吸わないで登っていました。今のロシア製のマスクは使っていませんでしたから、今のロシア製マスクであれば顔の部分をつついてやると氷が落ちて使い易いと思うんですが、当時のマスクは使えませんでした。

なにしろ一番怖いのは風ですね。北壁の下はいいんですけどホーンバイン・クーロワールの中に

入っていると、煙突みたいになってますから、風 によって下から石がバチバチあたってくるわけで すね。そのくらい風がものすごい。冷蔵庫くらい の氷の固まりも上からガンガン落ちてくる。そう いう強風と寒さですね。我々が当時使用していた 羽毛服は着るだけで重量が6キロ位あったものを 着ていました。そうでないと寒くてどうしようも ない。手袋に関しても五重にしていました。一番 下はシルク、次にハンガロンテックス、通常のオー バーミトン、羽毛のミトン、一番外にウエットスー ツの生地で作った濡れないものを着用してました。 ですから細かい作業は一切できません。足回りは プラスチックのダブルの靴、インナーシューズは サーモインナーを使用しています。もともとの足 サイズよりも3ランクは大きいサイズの靴を履く ことになります。当時でたホカロンも使ってみた のですが、酸素が薄くてもそこそこ使えましたね。 じわじわとですが長時間暖かかったです。さらに その上にオーバーシューズをつけますから、ワン タッチアイゼンは使えません。バンド固定式のア イゼンを使います。出発の準備をするだけで1時 間近くかかります。着るぶんにはいいんですが、 出す方も大変でした。壁にぶら下がりながらオシッ コをするときは死ぬ思いでしたね。

司会 私どもで現在検討していますのがプレとポストなんですが、(後に2000年の春に決定)ポストのチョモランマは登頂率が非常に低いですね。 秋に登るとなった場合、どんなデメリットがあるんでしょうか。

早川 秋に問題となるのは寒さだけだと思いますね。雪はそれほど降らないですね。逆に冬になってくればどんどん少なくなってくるという状況ですから。11月中旬くらいにならないとジェットストリームはあまり影響しないと思います。ですから、11月の初旬くらいまででしたら寒さ対策さえしっかりしていれば、ある程度可能性はあると思います。ただし雪が硬くなってきますから、それに対応する装備が必要です。雪が硬くなることによって登りやすくなるといえますけれども。

司会 気象も含めて、何かご質問は無いですか。 参加者 宮城の渡辺です。ノースコル周辺の積雪・ 雪崩の危険性はどうでしょうか。 早川 ポストの場合、プレにみられるような降雪 はほとんど無いですね。

古野 ノースコルの雪崩は降雪直後の雪崩ですから、4月位ですと、3、4日降る場合がありますので、そういう場合にノースコルに積もった雪が雪崩を起こす場合は頻繁にあります。降雪直後は行動しないことですね。

司会 雪崩の場合、降雪直後と懸垂氷河の崩壊が ありますが……

古野 ノースコルの場合はほとんど降雪直後の雪崩ですね。

司会 過去に対岸のブロックが落ちてその爆風で やられたとの話もありますが。

古野 ええ、そうですね。ただ北側、チョモランマについていえば、雪があるほうが登頂には絶対楽です。雪がないと苦労します。

キャンプ配置と他の隊との問題など

司会 それでは次に地形とキャンプ配置についてお聞きしたいと思います。チョモランマに限定してお話をお聞きしたいのですが、過去の事例をみますと、8,300 m位を最終キャンプにする場合と、8,600 $\sim 8,700$ mに設ける場合があるようです。そのへんのキャンプ配置についてはどうでしょうか。古野 北側のC 6 は8,300 m なんですけど、じつは大変な場所で人が多すぎてキャンプが張れないんですね。とにかく早く行って、いい場所を確保することが必要です。特にC 6 は岩が出てますんで、岩を削るなどしなくてはいけないし、ここに張っていると最近は勝手にテントを使われるということもあります。ある登山隊からは酸素ボンベに鍵を取り付けられるよう改造できないかなんて相談もあります。

司会 8,300mですね。

古野 8,200~300mなんですけど、何カ所かキャンプ地がありまして、なるべく上を取った方が楽なんですね。(会場笑) 私たちは北東稜でルートが違うんで、8,400~500mの第1ステップ下にC7をつくったんですけど、まあ、そこは必要ないと思います。私たちはたまたま日本人2人のアタック隊で、正直全然苦しくも何ともなかったんです。順化もあるでしょうし、たまたま自分が強かった

▼司会·八嶋 寛氏



のかもしれないですけど、 $8,400\sim500\,\mathrm{m}$ で酸素を吸っていれば、実際寝るとき以外は酸素を外していましたけれども、特に体に負担は感じませんでした。一般的にはC 7 を作っている隊はほとんどないと思います。

司会 C7を作るとすれば距離も短くなりますけれども、作るための労力も増えるというデメリットもありますね。ここでは、先鋭的なメンバーで行くということではなく、そこそこヒマラヤを経験している人間でオーソドックスな登山を展開するとして、万全を期したいという観点から意見を伺いたいんですが、労力とか費用とかを無視して考えた場合いかがでしょうか。

古野 C7の標高で泊まれる能力の有無を考える と、無い人の方が多いと思いますね。8.500m近 い場所で、いくら酸素を使ったといっても、翌日 に余力を残してアタックできる人の方が少ないと 思います。南北を比べると、北側というのは南側 に比べて岩登りがあるものですから、高所で衰弱 していると、10倍くらい労力つかいますね。ふつ う、元気であれば10分でいけるところが、衰弱し ているために3時間5時間かかるという場合があ るわけですね。南側のサウスコルは8,000m少し 下りますけど、岩場はほとんど出てきませんので、 北側はそのことを考慮しないと厳しいと思います。 参加者 山形の大滝です。実は私、古野さんが登 られました翌年にチョモランマ(立正大隊)に行っ ておりまして、アタックの途中で断念して戻って きましたら、酸素ボンベをかっぱらわれて無くなっ ていたというのを実際体験しております。それを 八嶋さんに話したところ、「それは幻覚ではない

のか」と言われまして(会場笑)、今こうして笑いが出てますけど、ヒマラヤの常識が常識で無くなっているということを示していると思います。 今改めて古野さんにお聞きしたいんですけれど、 96年以降に高所での盗難などで、登山隊が致命的なダメージを受けたなどの事例があれば、紹介していただきたいと思います。

古野 致命的なものは私は聞いたことは無いです。 ただし致命的になる可能性のあったものはいくつ か聞いてますし、ただ、みなさん成功して帰って くるとそういうネガティブな部分は発表したがら ないですね。ですから、表に出ない実数はかなり あるというふうに私は認識しています。

司会 それは盗難ということですか。

古野 そうですね。

司会 防ぐ方法とか、なんとかしなくちゃいけないですね。知らない間にテントに人が入っていたという様な話もありますし。

古野 まあ、半分むこうの肩をもつつもりはないですけど、民族性がありましてですね、今ここにあるものを使って何が悪いだと、全く罪悪感が無い、常識が違うという部分もありますね。

参加者 山形の今野です。盗難にあうということ ですが、おおよその想像はできますが、どんなも のが盗られているんでしょうか。

古野 やはり燃料、酸素ですね。やはり余裕が無くなってそこに潜り込むだけですから、せいぜいお茶作って、甘いもの飲んで、ちょっとテント借りたという位のものだと思うんですけれども。あくまで想像ですが。

早川 パミールとか、テンシャン国際キャンプではかなり盗難がありましたね。アイゼンとかピッケルとか、かなり盗まれました。東欧の人とかは装備が貧しいですから、テントに置いていたりすると、それはもう盗んで下さいと言ってるようなものですから、絶対に外に出しておかないというのは常識ですね。

司会 やはりキャンプがたくさんあるというのも 私は想像できないんですけど、数が集まればいろ んな人がいるわけで、キャンプに人(番人)を置 くことも解決法でしょうか。

古野 それだけのために人1人置くというのも…

(会場笑)酸素に関しては改良すれば、穴を開けて針金をまくとか、鍵をかけるとか可能ですね。司会 鍵を選ばないと駄目ですね。(会場笑)古野 でも、本当はごく少数の例だと思います。よく話が大きくなって伝わっていますけど、エベレストでもそんなに心配することは無いと思います。ただ致命的になったことを考えると、一応頭に入れておいたほうがいいと思います。

装備などについて

司会 次に装備について伺いたいと思います。 古野 北側で、春に行く限りは、悪天候の場合は アタックしませんので、冬のチョモランマはわか りませんが、そんな寒くないです。(会場笑)手 袋に関しては、私の考え方でもあるんですが、指 同士で熱を出し合って保温するという働きがあり ますのであまり重ねてしまうとかえって冷たくな るという場合もあると思います。私はいつも2枚 だけでした。頂上では感覚的にマイナス25度くら いだったと思います。やはり薄い手袋2枚でビデ オをまわしていたら5分もするとチンチンしてま した。ルート工作中は素手に近かったですね。風 さえなければ、結んだりするのにダウンのミトン なんか付けていたらできませんので、そんな寒く ないですね。

司会 それは条件がいい場合ですね。最悪の場合、 万一のビバークや天候の急変を考えるとどうでしょ う。

古野 手袋は必ず予備を携帯しておきます。羽毛 服は欧米の隊ではツナギ型が多いですね。私もツナギ型を使用しました。大宮求さんのビバークのことが頭にあったもので、北東稜でビバークになったらたまんないなと思いましたんで、やはりツナギにしました。ツナギだから暑すぎるということもありませんし、アタックの時はツナギもなかなかよかったかなと思います。あまり着込むと動けなくなりますので内側はフリース1枚です。トイレの際もうまくできるようになってます。トイレはダンロップテントの内張りと外張りの間を掘って利用していました。

後藤 南西壁の時は私もツナギを使っていました。 先程テントサイトの話がありましたけれども、私 どもはテントステージを使って、その上にテント を張っていました。

司会 あれはアルミか何かで……

後藤 材質はチタンです。チタンのフレームにアルミの板を渡しました。それで十分な強度が得られました。

司会 それは日本で作っていったんですか。

後藤 そうです。

早川 キャンプについてなんですけど、冬の場合は雪洞が比較的有効でした。ほとんどが氷ですから、掘るのは大変な作業ですけれども、一度テントのスペースを作って、その後ちょこちょこ穴を削りながら作って行くんです。

司会 ノースコルあたりは作れそうな……

古野 ノースコルあたりは氷や雪のブロックを切り出して積めますから、相当雪が多いですから、 作れると思います。

司会 スノーソーとか持っていった方がいいですかね。

古野 あった方がいいですね。私どもが計画段階 から最後まで結論が出なかったのが、眼鏡、サン グラスの曇りなんですね。酸素を使うとどうして も鼻の脇から酸素が漏れますから、それで眼鏡が 凍って非常に歩きづらくて危険だということです。 シェルパたちも皆同じらしく、普段眼鏡もかけて ない人がサングラスをかけてそれで曇ると非常に いやがりまして、何度言っても外しちゃうんです。 それで雪目になってしまう。私たちが使ったロシ ア製の酸素マスクはウエットスーツと同じウレタ ン製でできてまして、すごく暖かくて私には快適 だったんですけど、横に付いているバンドをとに かく思いっきり引っ張ると登りは何とかなりまし た。下りは下を向きますんで、どうしても息が漏 れてしまって曇ってしまいました。眼鏡に曇り止 めなんか付けたって関係ないですね。うちの貫田 が曇らないというレンズを付けて持っていきまし たがやはり曇りましたね。メーカーに文句言った ら「どこで使われましたか」と聞かれて「エベレ ストです」と言ったら勘弁してくださいと言われ たそうですが。(会場笑)

司会 そういう細かい点がすっきりしませんね。 古野 そうですね、特にゴーグルかけたりすると

もう最悪ですね。冬はどうですか。

早川 いや、そういう意識はしてませんでしたね。 曇らなかったですね。冬の場合は顔を完全にすっ ぽり覆っちゃうんですよ。完璧にフェイスガード で覆って肌が出ないようにします。

参加者 宮城の渡辺です。パルスオキシメーター を使われたと思うんですが、低温下で作動状況は どうだったでしょうか。

古野 もちろん頂上では使っていませんけど、ああいう電子機器はですね、たとえばNHKに頼まれてビデオカメラ持っていったんですけど、どうせバッテリーが駄目になるだろうと思って暖めておいて、撮る前にバッテリーを入れてやったんですけど駄目なんですね。本体そのものが冷えているともう駄目なんですね。カメラもそうですけど、電子機器があれば全部まるごと体温で暖めて、使うときだけ外に出す、そういう状態であれば問題なく動きます。パルスオキシメーターも行動中に使うことはないですけど、基本的には体温で暖めていけば大丈夫だと思います。

コンデションの管理について

司会 パルスオキシメーターについてはデータの 活用についてですね、ややわからない点があるん ですけれども……

古野 実際のクライミングの期間にはもう使う時期は終わっていますので、使用するのはルート工作前か始まる前の、順化の時ですね。私もすごい体調が悪くて、南側で順化やってたんです。その時はめちゃくちゃ数字が悪くてもう駄目だと思っていましたけど、どんどん体調がよくなっていくと、6,500mプラス300m位で80台後半ですか。やはり上に行って疲れて顔がむくんでいる時ですと60台ぐらいに落ちましたね。個人差もありますから60台でも問題なく動いている人もいればそうでない人もいるわけですし、要は自分が動けるのがどの程度の数字なのか把握しておくことですね。可会そうですね。そのようにデータを積極的に生かす方法があればお聞きしたいんですけど。古野私たちも使ったのは7,100mのC4までで、

古野 私たちも使ったのは7,100mのC4までで、 その上部でのデータは取っていませんからわから ないんですけど。どちらかというとパルスオキシ メーターは高山病の管理というか、これ以下だとちょっとザンムーまで降りた方がいいよとか、そういう使い方をしてましたし、実際クライミングが始まったらそういう次元の問題じゃないという感じがしますね。ABCで70後半から80台を示していない人は上に行くにはちょっと難しい、そういう使い方ができると思いますね。

後藤 私たちはずっと朝に脈拍と体温を計るということをやっていましたし、キャラバン中も毎日 きちんと記録してました。

司会 群馬では山で脈拍計るのは常識ですか。 後藤 そうですね。

司会 実は81'カンチェンジュンガの偵察隊で私は医療担当でしたので、たまたまそれをやってもらったことあるんですよ。キャラバンからずっと計ってもらって、今もその時の記録を保管してます。人それぞれ個人差があって同じ標高でも80(脈拍数)の人もいれば100の人もいますね。脈拍数よりもむしろ急激な変化があると、日誌には調子が悪いとか必ず記載されているんで、そういうことから体調の予想が可能ではないかと思うんです。

古野 なかなかみんな正直に言わないですね。 (会場笑)

早川 パルスオキシメーターはどこまで正確な値がでるかわからないみたいですね。通常であれば、60とか70とか、本来は生きていられる値ではないんですね。ですから90を切った段階で正確な数字は出ていないだろうということは言われています。使い方として、目安程度にはなるんだろうなとは思います。それをうのみにして70しかないからもう駄目だろうということではないと思います。

アクシデントについて

司会 それではアクシデントとその対策について お願いします。

早川 僕はやはり、当たり前のことを当たり前に しっかりとできるということが一番大切だと思い ます。技術的なことですね。歩き方にしてもすべ てそうですけど、みなさん日本で冬山を登ってい る。そういったことが高所でもできるという、ど んなところでも当たり前の技術を使う、発揮でき るということが大切ですね。

古野 エベレストの場合はアクシデントは限られ ています。もちろん雪崩などは別として、アタッ ク時の帰路、ここに集約されるわけです。これを どう考えるかという問題だと思います。単独無酸 素、アルパインスタイルといったエクストリーム をめざしている登山隊でなければ、多少お金はか かっても完璧なロジスティックスを組んで、アタッ クしたら前のキャンプには必ずシェルパのサポー トを入れるなど確実にするべきです。このルート (チョモランマ北稜) はシェルパの力をもってす れば、C5から救援に十分いけますし、動けなく なったら自分たちで救援に行ける体制、後方支援 を確実にすることを必ずやっておくべきだと思い ます。それから、福岡隊がいろいろトラブルに巻 き込まれたりしていましたけど、あの高所では道 徳的な倫理観ていうのはほとんど意味を無くして いるような部分がありますし、個人の責任でとい う考え方が、他の登山隊も、言葉では皆言いませ んけど、確立されているような気がします。自分 ですべてを解決する力があるべきですね。

シェルパシステム登山について

司会 さきほどシェルパの話がでておりました。 ルート工作、荷上げなどをシェルパに任せるという、まあ私が勝手に名付けましたが「シェルパお 任せ登山」というと語弊がありますので「シェルパシステム登山」としたんですが、今はそれが主流になっているということですが、その現状についてアドバイス願いたいんですけど。

古野 チョモランマのシーズン中のルートは、正 直言って隊員にとってはルート工作の楽しみって のはほとんど無いですね。というのは、登山隊が 20隊近く入ってますんで、合同でどのようにルートを延ばすかが問題になってきます。たとえばノースコルの雪壁なんかは2本3本とルートが延ばされて、どっちにしてもシェルパがやらざるを得ない状況です。彼らも自分たちの職場ですから、何十回も経験している者もいますので、そこを任してしまうというのはそんなにおかしいことではありません。他の登山隊とどのように合同で登るかということで結構トラブルがありますので、あら

かじめ話し合う必要はあると思います。なかなか難しいですよ。あらかじめ話し合ってその通りやるというのは。かなり難しいことだと思います。 まあ残置ロープがかなり残っていますし、私はもう、シェルパシステム登山以外は考えにくいですね。

リーダーとメンバーの要素

司会 それは一般ルートのことですね。それでは リーダーとメンバーに求められる要素についてお 聞きしたいと思います。我々のチョモランマ計画 についてはヒマラヤを最低1回経験した者と決め ておりますけれども、当初は2回以上の経験とし ておりましたが、東北地方の現状では何度も経験 している人は少ないものですから、1回以上とし ましたが、チョモランマを登るためにどのような 経験が必要か、お聞きしたいと思います。

後藤 私たちが南西壁をやる時に、一度失敗しているんですね。2回目ということで何としてでも登らなくてはならないということで、失敗したらもう隊長はチベットへ逃げるからと言っていたんですが(会場笑)、プレッシャーがかかっていますし、何と言うかみんな気持ちが一つに固まっていましたし、どうしてもやらなければならないという気持ちがありました。いざ登頂という際にはチームワークが重要だと思います。

早川 さきほど、公募隊の話の中で登山経験は「エベレストしかない」という話もありましたが、シェルパがほとんどといっていいくらいやってくれますし、正直いって、そこそこ体力があって、技術がそこそこあれば登れる時代です。そのような中でリーダー、メンバーに求められる要素といってもピンとこないんですけれども。最低限必要なものとしては体力と技術でしょう。

司会 ヒマラヤ全般では無くて、8,848mを登るという視点ではどうでしょうか。最近は初めてヒマラヤに行った人でもチョモランマに登っているようですが、私はステップアップして登るべきだという考えがあって、ヒマラヤを一度経験した者という条件を設けたんですけれども……

早川 従来的なヒマラヤ登山を考えればそのとおりだと思うんですよ。そうすれば登れる可能性も

がいますから、チョモランマへ行く場合は8.000 mまたは8,000m近い山に登っていれば必ず最終 的には有効だと思いますね。ただ、みなさん、参 加される方東北7県に渡っているわけですから、 人によって背負っているものが違うと思うんです ね。そういった中でどのようにうまく協調してい くかということですね。そういうところがかなり 難しいのではないかと思いますね。すべてオープ ンにして話し合うことが必要だと思いますね。 古野 最近公募隊が主流になりつつありまして、 人間関係については、基本的にはこの資質は変わ らないと思います。やはりエベレストの頂上は、 無理しなくては登れないですね。リーダーが完全 な健康状態の人だけ選ぼうとしたら誰もいけなく なるわけで、リーダーはやはり鬼にならなくては いけない。仕事を辞めて来た人でも、いろんな事 情を背負っている人でも、そこに情が入ってしま うと事故に結びつきますね。私も経験しておりま す。その点はリーダーシップは非情なものが求め られると思います。私どもの登山隊では、池田錦 重という、神崎隊長とはずいぶんタイプの違う人 がリードしたわけですけど、私が常に先頭でルー ト工作をやって、ずいぶんへろへろになって降り てきて、池田副隊長が言うには、古野は疲れてい たからアタック隊員から外そうと思っていたと後 で聞きました。まあ、あの人ならそういうことを 言うだろうなと思っていました。私と井本と2人 登りまして、アタックに2パーティー出すという 話になって、結局丼本も私も引かなかったんです ね。後から行くというのはサポートに回るという ことですから。最終的には池田副隊長が折れたん ですが、あまりにも天気がよかったので最終的に は成功したんですが、全く同じようなケースでヒ マルチュリの場合は1人失っています。最後の判 断の冷静さを最後まで持てるリーダーが大切だと 思いますね。

高くなりますし、経験があると無いとでは全くち

展望

司会 それでは時間もありませんので、最後に 8,848m峰の将来ということで、田中さんの方か ら何かありませんか。 田中 今まで経験者のお話を聞いていて、やっぱりそうかと思う部分がありますね。最近は1つの文化としての探検・冒険は無くなりつつありますね。「空へ」を書いたジョン・クラカワーの「荒野へ」という本の中で紹介されているんですが、冒険したいという気持ちは遺伝子情報だというんですね。そこまで言われると夢も希望もへったくれもあったもんじゃないなと思いますね。そういう事実を前に、人間はそういうもんであって、しかも新しい世界を求めるんであれば、商業主義、これが当然でてくるだろう、そういう傾向は避けられないと思いますね。

後藤 いろんな情報があると楽になると思うんです。でも山としての危険性、困難性は変わらない と思います。

早川 チョモランマが世界で一番高い山だと言う 以上、これからも永久にみなさんチョモランマを 目指すだろうなと思います。人間が歩いて目指す 以上、画期的な登り方でも開発されない以上、リ スクを背負って苦労しながらチョモランマを登ら なければいけないということは今後も続くと思い ます。個人的にはK2の方が遠くから見るとどう しても高く見えるんですね。ガッシャーブルムや ブロード・ピークに比べても飛び抜けてでかく見 えますからね。もしかするとK2の方がもっと大 変で、実際大変なんですけれど、エベレストより ももっと高いんじゃないかと思うんですけれども。 古野 かつてからのアルピニズムの要素が少なく なった現在、多くの人がいかにたくさん登れるか と、実は私どものビジネスの領域でもあるんです けれども、そういう時代になっていると思います ね。とにかく安全が何においても最優先されるこ とがただしいと認識すべきではないかなと思いま す。まだ無酸素で登られていない時代とかであれ ば、命がけでやっても価値があるものだったかも しれませんが、いい加減な準備、いい加減な組織 で登れば他の隊にも迷惑をかけますし、啓蒙がな されるべきだなと思います。これまた相反するこ とですが、やはり8,848mはいつまでたっても空 気は薄いわけで、いろんな考えがありますけれど も、個人のリスクは個人で背負うという意識は登 山隊の中でしっかり持つこと。連れていってもら

▼海登研会場風景



うという立場の人が多くなった登山隊というのは、その認識が甘くなります。公募隊が顕著な例ですけど。さきほども言いましたけど、8,500mの高所に上がると道徳的倫理観が通用しない世界であると認識・理解した上で、夢に向かって世界最高峰をめざす人が増えればいいなあと思います。

司会 いろんな経験があって、その恩恵を受けて 我々が行ける環境が整って来たといえると思いま す。情報を安易に受け入れるのではなくて、検証 しながら計画を練っていきたいと思います。本日 はどうも有り難うございました。

(記録・大滝 勝、編集・八嶋 寛)

(編注) 東北地区海外登山研究会について

今回のシンポジウムを開催した「東北地区海外登山研究会」は、「海外登山をもっと身近なものとして広く仲間を求め、情報交換や海外登山の諸問題を掘り下げ、今後の高所登山の研究資料となる会にする」ことを目標として、東北各県の「日本山岳協会海外委員」により、1987年11月に発足し、第1回が同年11月28日~29日に仙台市(宮城県)で開催された。

以後各県持ち回りを原則として毎年研究会を開催してきたが、HAJでは東北地区との関係が深いこともあって第1回から「共催・後援」などの名目でこの活動を支援し、求められるままに講師派遣・資料提供を行って来た。

現在では、新潟県も参加して7県の持ち回わりとなっているし、開催地によっては、労山などの協力も得てなるべく多くの登山者に門戸を開き、海外登山の知識の普及と情報交換に努めている。

■ 寸 感 ■

岳人8月号の「どう選ぶ あなたの山岳保険」 と8月3日付朝日新聞のコラム「山岳保険制度の 整備急げ」の記事の中で、私がかねてから提案し ている「登山共済機構」が紹介された。

このような「機構」の構想については、1995年から機会をみては、山岳関係者にその必要性を訴えてきており、「ヒマラヤ294号(96/5)」の寸感でその骨格について触れたのであるが、同年夏に労山の故波木井氏が来会して「登山時報」への原稿依頼があったため、96年10月号(260号)誌上に「登山共済の夢」として具体的に寄稿したのである。

登山界はめまぐるしく変化しており、その時代から先を見越した案を建策して行くのは、時代に 生きる者の責務であろうと思う。 (山森)

事務局日誌(8月)

10日(月) ヒマラヤ322号発送 サイパル登山隊壮行会(池袋、山森、 八木原、尾形、中川) ナンガ・パルバット遺体発見騒動

- 19日(水) ラモ・シェ隊下山報告
- 21日(金) ニンチン・カンサ隊登頂報告
- 23日(日) ラモ・シェ隊帰国
- 25日(火) ニンチン・カンサ隊帰国
- 29日(土) スキルブルム峰偲ぶ会(横浜、山森、 中川)
- 31日(月) 東京集会(23名)

ヒマラヤ No.323 (10月号)

平成10年9月10日印刷 10年10月1日発行

発行人稲田定重

編集人山森欣一

発 行 所 日本ヒマラヤ協会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 4 - 2 - 7

萬栄ビル501号

電話 03-3988-8474

郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



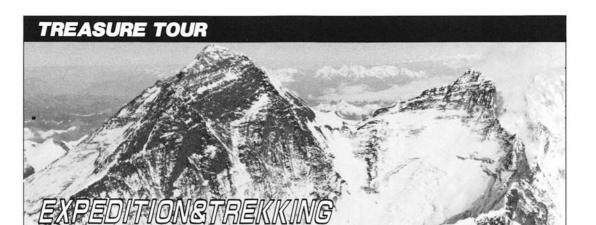
ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、 高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたを そろって力強くサポートします。

- ●ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)
- ●パルスオキシメーター (血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店 : 日本メディコ株式会社 レンタル・販売問い合わせ先 : 株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場 2-5-7 KHビル7階 TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510 (隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)



自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

――遠征隊、トレッキング、秘境への旅―― あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、 お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。

マウンテンドラベル株式会社 2503-3574-8880

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

三井航空サービス代理店2452号



トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。 ~ オパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米~

トレッキング・海外登山 シルクロード・秘境旅行 のパイオニア



株式 西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)1391(代表) キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)8384(代表) 大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5 ☎06(367)1391(代表) カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU. NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店/〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- ●新宿西口店/〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- ●新宿南口店/〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- ●神田登山店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- ●神田店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- ●神田ウェアー館/〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- ●八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- ●アネックス八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- ●川越店/〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751 ●大宮店/〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- ●高崎店/〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- ●松本店/〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- ●新潟店/〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟プラーカ店/〒950 新潟県新潟市天神1-1 プラーカ3 B1 ☎025(240)2316
- ●仙台店/〒980 宮城県仙台市宮城野区檔岡4-1-8 ☎022(297)2442
- ●盛岡大通店/〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店/〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ●ルート36真栄店/〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- ●北十二条店/〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062 ●2番街店/〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- ●旭川店/〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- ●外商部(メイルオーダー)/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



〒169 東京都新宿区百人町 1-4-15 ☎03-3200-1004